

2021年度の主な事業報告書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

■事業実施の概要について

【森林が持つ機能を最大限に発揮するための「協働」の取り組み】

- ・山麓アクションプログラムに基づき、森林が持つ公益的な多面的機能を最大限に発揮する森づくりを目的として、市民が主体的に一定の役割を担う「協働」の取り組みを進めました。
- ・活動に必要な資金や労力を、地権者である山林所有者や行政だけに求めるのではなく豊富なネットワーク・ノウハウ・人材を活かして、情報の共有化と意見交換を通じた協議会活動や災害に強い森づくりの活動、山林整備ボランティアの育成や山林整備サポートなどに注力し、着実に取り組みました。

【持続的な仕組みによる山麓保全活動の着実な推進】

- ・箕面市の「みのお山麓保全活動補助金事業」を受けて、山麓保全委員会が山林所有者や市民団体に助成金を交付して山麓保全活動を行う事業と、山麓保全委員会が独自で行う保全活動の二本立ての仕組みで、活動に取り組みました。

【「自然緑地」の同意率向上と山林整備サポート強化に注力】

- ・2021年度は新規の自然緑地の同意はありませんでした。
- ・51件(前年より2件増)の山林所有者からの山林整備ボランティア派遣要請を受けて、毎年増加する山林所有者からの要請に応えるため、人材育成を目的とした山林整備ボランティア養成講座を行い、延べ592人日のボランティアが参加しました。

【山麓保全活動をささえる持続可能な財務体質づくり】

- ・NPO法人として自立した活動を支えるために、持続可能な財務体質づくりに注力しました。
 - ・箕面市からの補助金、大阪府からの箕面ビジターセンター企画運營業務に加えて、三つ目の柱として、寄付金収入の拡大や公益財団法人夢&環境等宮崎基金への助成申請を行い植樹などの災害に強い森づくり活動を進めました。
- ※寄付金収入 ¥556,910(災害復興募金 ¥92,000、山麓保全委員会への募金 ¥464,910)
公益財団法人からの助成金 ¥500,000

【新型コロナウイルスがもたらす環境変化への対応】

- ・コロナ禍により、各種イベント・人材育成講座や活動の中止など大きな影響を受けましたが感染防止対策を徹底した他、オンライン対応を行うなど、環境変化に対応しました。

1. ネットワークを活かした「協働」の活動 ≪ネットワーク事業≫ ～情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業～

①、こもれびの森での植樹などの活動

- ・台風により人工林の倒木が多発したこもれびの森で、3月13日に48人が参加し、計129本の植樹などの活動を行いました。

ヤマザクラ	50本	ミツマタ	50本
ヤマザクラ	13本	エノキ	10本
タニウツギ	3本	ヤブムラサキ	3本

- ・ヤマザクラは、箕面市を通じて、公益財団法人日本さくらの会の「宝くじ桜」事業で寄贈を受けて、金柵内外に50本を植樹しました。
- ・その他、ヤマザクラ13本、エノキ10本、タニウツギ、ヤブムラサキ各3本の苗木計29本を住友ゴム工業(株)から寄贈を受け、植樹しました。
- ・植栽(ヤマザクラ&ミツマタ)を業者に委託した費用や防鹿用の資材購入など、活動に必要な資金は、助成金50万円(公益財団法人 夢&環境等支援宮崎記念基金)の他に、山麓保全委員会への寄付金や箕面の山 災害復興募金を活用しました。



3月13日の植樹活動



金柵内に植樹したヤマザクラ

《こもれびの森の植樹、及び管理に関わる収支実績》

支出	植栽委託費	937千
1,173千	防鹿ネット、支柱などの資材費	236千
収入	宮崎記念基金からの助成金	500千
1,173千	寄付金収入	673千

- ・2021年度は、5・6・10月の3回に涉り、防鹿ネット内にシカが侵入したために、5cm目の防鹿ネット(首がかからないサイズ)を設置した他ハイキング道にはシカが嫌いなミツマタを植樹しました。
 - ・裸地化による土砂の流出防止を優先して、苗木を調達しましたが地域性苗木の調達などの仕組み作りが課題となっています。
- ※コナラの苗木50本を、住友ゴム工業(株)の社会貢献活動で寄贈を受けて、山麓部の里山管理3団体に50本を配布しました。



ネットに首をかけたシカ

②、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会を通じた情報共有化と意見交換の活動

- ・国・府・市などの行政と市民団体で構成する協議会の事務局を担い山間・山麓部の保全と活用を目的とした協議会例会を年4回開催しました。(新型コロナの影響により、3回中止)
- ・箕面の自然を紹介した小冊子2000部を発行した他、間伐材を活用したベンチの設置、道標などの整備、清水谷での防鹿ネットの設置の他、八天の石蔵の整備を促進するなど活発な活動を行いました。



シカが嫌いなミツマタを植樹

③、増えすぎたシカによる食害対策の継続

- ・大阪府の生物多様性センターによるシカの生息数調査のために、箕面の山パトロール隊、みのお里ぶらなどによる自動撮影カメラの管理やデータ送付などを継続しました。

シカ害 対策	①防鹿ネットの設置	②頭数管理(猟友会など)
	③モニタリング調査	④市民への啓発



防鹿ネットの設置

④、特定外来生物「ナルトサワギク」の除去

- ・2月19日(土)午前41人が集まり、彩都粟生南の斜面に繁茂しているナルトサワギク約1,000kgを除去しました。
- ・ナルトサワギクは、生態系や家畜に被害を及ぼすために「特定外来生物」に指定されており、有毒成分を持ち、シカが食べないために急速に生息域を拡大しています。
- ・多くの埋土種子が残っており、短期間での根絶は困難であり、数年に涉って活動を継続する必要があります。



除去したナルトサワギクの搬出

⑤、安心・安全を目的とした「道標や案内板」整備の活動

- ・明治の森箕面自然休養林管理運営協議会における道標や案内板の整備活動を市民が中心となって継続しました。
- ・ハイキング道の安全・安心のための現地調査、ナラ枯れ被害確認や不要となった粘着シートや防虫ネットを撤去する美化活動を行うなど、現地調査グループによる活動を継続しました。
- ※2021年4月～2022年3月延べ110人日の活動(前年は130人日)
- ・箕面の山ハイキングマップ(裏面は教学の森とこもれびの森)を2021年度も3,000部印刷し、配布しました。



箕面の森 ハイキングマップ

2. 山林所有者との関わり強化の活動

《山林所有者関連事業》

～山麓部の80%を占める民有地の課題に向き合う事業～

①、山林所有者へのPR・広報

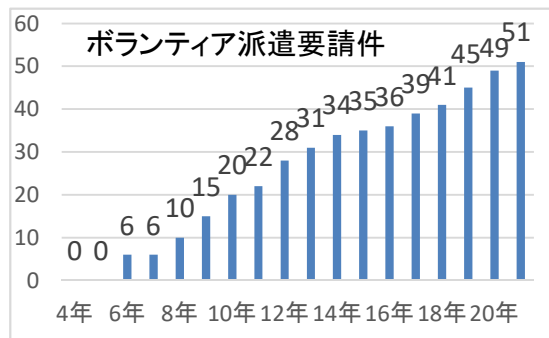
- ・2021年度の助成件数は1件増えました。83件、8,557,600円
※前年は82件、8,256,700円
- ・2021年度は新規の自然緑地の同意はありませんでした。

②、山林整備ボランティアの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は51件(前年より2件増)の要請があり、のべ592人日(前年は613人日)のボランティアが、主に風倒木の処理などの山林整備活動を行いました。
※粟生間谷地区の1件、103人(前年129人日)を含む

③、山林所有者の悩み相談

- ・2月、8月に山林所有者を対象とした”悩み相談会”を開催して8件の相談を受けました。
- ・山林所有者からは相続に関連しての問い合わせが多くあった他、寄付や売却(所有権移転や放棄)の要望などについての相談を受けました。



箕面の山林をお持ちの方へ
お気軽にみのお山麓委員会にご連絡ください。

山林所有者の “なやみ”相談

大雨が降ると、山が崩れないか心配ですね。



自分の山がどこにあるか、ご存じでしょうか？

山林所有者の悩み相談

3. 山で活躍するボランティアや活動団体の育成

＜人材・組織育成事業＞

～課題に向き合い、活動を担う人材や組織を育成する事業～

①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

- ・2021年9月からの第17期(2022年6月修了)の人と自然の入門講座「みのお森の学校」は、受講生19名の参加で講座を開催しました。

②、「山林整備」を担える人材の育成

- ・年々増えている山林所有者からのサポート要請に応じて、活動を担うためのボランティア育成講座を2回開催し20人が参加しました。
※10月16日(土)14名、11月27日(土)6名の計20名、※4月は中止

③、人材育成のための「みのお山麓保全ガイドブック」の作成

- ・森の学校の受講生など、初めての人を対象として、「みのお山麓保全ガイドブック」の改訂版(≒28ページ)の作成に着手し、検討会議を5回開催しました。 ※2022年上期に発行予定

④、「みのお森のセラピー」事業の再編

- ・冬季にセラピーアシスター養成講座を開催し、11人が受講しました。スタッフの減少が課題でしたが、今後の活動参加が期待されます。
- ・箕面ビジターセンターで「森の癒しウォーク・ハンモック体験」を継続した他、勝尾寺園地で、林野庁事業のセラピーを1回開催しました。
※森の癒しウォーク参加者:22名(3回開催) 2回中止
※林野庁セラピー(箕面ふれセン事業):15名(2回開催)



みのお森の学校



山林整備ボランティア養成講座



ハンモック体験

4. 事業への参加や理解と協力を得るための活動

＜PR・広報事業＞

～市民・会員・市民団体及び行政など関係者へのPR・広報の事業～

①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

- ・ハイキング道の通行止め情報を中心に、コロナ禍によるイベント中止などを含めて、精力的に「ブログ」を更新しました。(年177回)あわせて、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、山麓保全情報の発信に努めました。
- ・山麓保全活動の助成結果や山麓保全委員会の活動などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報などを発信しました。



みのお山なみネット

②、ニュースレター「山なみ通信」の発行

- ・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行しました。
- ・各所に配架するとともにNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」サポート会員などに、各回約350人にDM発送を行いました。



山なみ通信

③、広報・啓発イベントの開催

- ・11月3日に予定していた瀧安寺前広場での山とみどりの市民フェスティバルは新型コロナウイルス感染防止のために中止となりました。
- ・10月に予定していた生物多様性研究フォーラムは、2月に延期し(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センターの協力を得て、オンライン(Zoomウェビナー)形式で「箕面の外来生物との生物多様性」を開催し、全国の研究者を含めて129名が参加しました。



生物多様性フォーラム

5. 山麓保全活動助成金の活用と円滑な運営のための活動 <山麓保全助成金交付事業>

～みのお山麓保全活動助成の仕組みを活かし、適正な執行を図る事業～

- ・山林所有者や市民団体による「森林の持つ多面的な機能を最大限発揮させる」ことを目標として、山麓保全活動の円滑な推進に注力しました。

①、助成申請の促進、審査会開催、助成金交付など

- ・箕面市の補助金規定に基づいた助成金交付規定や審査会規定に則り、2021年9月・2022年3月に審査会を開催しました。
- ・助成金申請書の受け付け、取りまとめ、議事録の作成、箕面市への書類作成などの助成事務全般を実施しました。
- ・JAバンクに助成金専用の銀行口座を開設し、助成金の振り込みに係る業務(計99件)をインターネットバンキングで行いました。
山林所有者への活動助成・・・2021年:計83件、8,557,600円
市民団体への活動助成・・・ 2021年:計16件、1,756,000円



助成申請募集チラシ

<山林整備サポート活動の推進>

- ・山林所有者から山林整備サポート要請を受け、山林整備活動を行う5団体(みのお里ぶら、箕面の森のきこり隊、箕面の山パトロール隊、箕面マウンテンバイク友の会、今井水利組合)に委託するなど、51件の山林整備サポート活動の円滑な推進を促進しました。



山林整備活動

②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓保全活動の助成を受けた団体や山林所有者の活動の確認及び提出された報告書のチェックなどの事務を行いました。

6. 箕面ビジターセンター企画運営事業 <ビジターセンター事業>

- ・8月に大阪府の「箕面ビジターセンターの企画運営業務」に係る公募があり、山麓保全委員会の企画提案が選定され、さらに3年間の企画運営業務を受託しました。
- 受託業務期間・・・2021年(令和3年)10月1日から2024年(令和6年)9月30日まで

○山麓保全委員会が受託した企画運営業務

- ①、自然観察会などのイベントによる自然体験活動
- ②、箕面ビジターセンターだよりの発行などによる普及啓発活動
- ③、展示室の企画運営による環境学習支援
- ④、箕面ビジターセンターに常駐する自然解説員の配置



・新型コロナウイルスの感染拡大により、自然観察会などのイベントが中止になりましたが、感染拡大防止対策実施を徹底しました。

①、自然解説活動

- ・箕面ビジターセンター利用者の利便性改善のために、展示室や事務所・野草園周辺で利用可能な「無料Wi-Fi」を設置しました。
- ・自然解説員の配置がない平日でも、スマホにより、安心安全情報や自然情報の収集が可能になりました。
- ・展示室への入館者数把握のために、従来のノート記帳を廃止して12月から赤外線センサーによる入館者カウンターを設置しました。今後、企画運營業務の評価や改善などに活用していく予定です。

○自然解説員の配置

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら、年202人/日の解説員を配置しました。ハイキング道の案内や、植物や野鳥など季節の自然情報などの発信を行いました。

○自然観察会などのイベントの実施

- ・新型コロナの影響により4月～7月までの13回のイベントが中止となりましたが、年45回、観察会や工作教室などを開催しました。
※参加者数388人、イベントスタッフ数158人
- ・開催にあたり、当日参加は中止して、全て事前受付として、人数制限を行いながら、新型コロナ感染防止対策を徹底しました。

○展示室の企画運営

- ・1階正面入り口に、大型モニターを設置して、箕面の自然と生き物（春・夏・秋・冬の4種）を紹介する映像を放映しました。
- ・その他、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。

○自然情報誌の発行

- ・地元写真家の協力を得て、年4回自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行し、会員や「箕面の森の守りびと」会員などにDM発送した他、箕面ビジターセンター以外の公的機関などに配架しました。
※2500部×4回＝10千部を発行
- ・美しい写真と興味を引く内容が市民から高い評価を得ています。
- ・箕面ビジターセンターだより特集号（春・夏・秋・冬）を発行しました。
- ・あわせて、特集号の英語版をネイティブや大阪府翻訳局の協力を得て、発行しました。※1000部×4＝4000部
- ・種名の英語表記などの編集作業に大きな労力を要しましたが、今後増えてくるのが予想される外国人による箕面の自然や生き物への理解に役立つことが期待されています。

②、企画活動

- ・年9回「友の会」（企画会議）を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他、自然情報やハイキング道の安心・安全情報の共有化を図りました。

③、PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、自然情報や安心安全情報の発信を活発に行った他、イベント開催のチラシを作成し、各所に配架しました。

（注記） その他の事業の実施はありません。



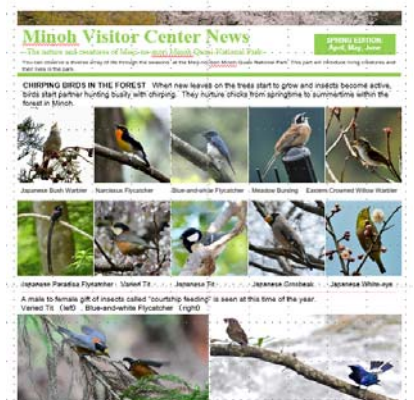
無料Wi-Fi



展示室入館者数カウンター



箕面の自然と生き物の放映
（春・夏・秋・冬）



Minoh Visitor Center News
SPRING EDITION

箕面ビジターセンターだより英語版